

第3回鎌倉市公共施設再編計画策定委員会 議事録

- 日 時: 令和8年8月26日(水) 午前9時30分から午前10時45分まで
- 場 所: 鎌倉商工会議所 3階 301 会議室
- 出席委員: 李委員長、大原副委員長、池邊委員、唐松委員、鈴木委員、千代委員、波多委員
- 欠席委員: 三浦委員
- 事 務 局: 都市調整部長 古賀、次長 上林
公共施設課担当課長 石塚、課長補佐兼担当係長 西村、公共施設課職員2名
- 業務受託者: 八千代エンジニアリング株式会社4名
- 傍 聴 者: 4名
- 議事次第:
 - 1. 開会
 - 2. 報告
 - (1) 第2回委員会の振り返りについて
 - (2) 市民意見の把握について
 - 3. 議題
 - (1) 再編方針・再編方法について
 - 4. その他
 - (1) 今後のスケジュールについて
 - 5. 閉会
- 配付資料:
 - 議事次第
 - 配席図
 - 資料1 第2回委員会の振り返りについて
 - 資料2 市民意見の把握について
 - 資料3 再編方針・再編方法について

○会議記録:

- 李委員長 ただいまから、第3回鎌倉市公共施設再編計画策定委員会を開催いたします。
まず冒頭に、本委員会を開催するに当たり、事務局から説明をお願いします。
- 事務局 本日、委員8名のうち、7名の出席となり、三浦委員は、オンラインで参加いただく予定です。鎌倉市公共施設再編計画策定委員会条例施行規則第3条第2項に基づき、委員の過半数の出席により本委員会が成立していることを報告いたします。
本日の傍聴希望者は4名です。
- 李委員長 続きまして、本日の配付資料を確認いたします。事務局から説明をお願いします。
- 事務局 ー配付資料に関する説明ー

第2回委員会の振り返りについて、市民意見の把握について

- 李委員長 それでは、2. 報告の「(1) 第2回委員会の振り返りについて」及び「(2) 市民意見の把握について」、事務局から説明をお願いします。
- 事務局 ー資料1及び資料2を説明ー
- 李委員長 それでは、事務局の説明について、委員の皆様からご意見をお願いします。
- 波多委員 資料1のp. 7及びp. 8（小学校区別の地域特性データ）について、分かりやすい内容となっており、市民に広く周知すべきと考えます。
- 事務局 公共施設再編計画の見直しに当たり、本データを参考資料として掲載するなど、資料の見せ方を検討します。
- 千代委員 波多委員のご意見のとおり、小学校区ごとの地域特性が可視化され、理解しやすい内容になっていると評価します。
- 唐松委員 波多委員と千代委員のご意見に賛同します。小学校区ごとに地域特性を把握・整理することは、市の防災や教育、地域振興の観点でも重要であるため、公共施設再編計画の見直しの場面以外でも、広く庁内で共有を図るべきです。
- 事務局 公共施設再編計画の見直しに関する庁内での照会に合わせて、周知を行うことなどを検討します。なお、資料1のp. 7及びp. 8を公表資料とする際の見せ方については、庁内で検討事項といたします。
- 大原委員 資料2のp. 6にある「鎌倉市が民間施設を借りて行っても良いと思うサービス」の設問の回答として「行政窓口機能」が多く挙がっています。これは身近なコンビニエンスストアを想定した回答と考えられますが、今後、人口減少と高齢化が進行することで、地域によってはコンビニエンスストアが撤退し、近くに存在しない地域もあります。公共施設の再編や公共サービスのあり方を検討するに当たっては、こうした民間施設の立地状況も踏まえた検討が必要と考えられます。
- 事務局 当初の再編計画の検討時にも「移動市役所」のような取組事例が出ていました。コンビニエンスストアなどの民間施設が少ない地域の住民の皆様にもご理解を得ながら、公共施設の再編と公共サービスの提供について検討していきたいと思います。
- 唐松委員 若年層の意見の大きな傾向として、公共施設の機能の充実や質の向上を望む声が多い一方で、資料2のp. 3にある「集約化・複合化に対する理解・協力の度合い」という設問の回答を見ると、「開館日・運営時間の短縮」への理解度は、他の項目と比較して低くなっています。公共施設の再編を進めるに当たっては、施設の種類やサービス内容を精査し、市民ニーズに合致した適切な開館日・運営時間を検討する必要があると考えます。
- 事務局 公共施設の配置や総量の適正化の検討と合わせて、公共サービスや施設機能の充実という観点から、市民ニーズに即した適切な開館日・運営時間のあり方について検討していきたいと思います。
- 波多委員 市内の様々な公共施設で証明書発行が可能となれば、高い利便性を感じる方も多いと思いますが、今後、さらなるデジタル化の進展により、各種証明書の電子化が進めば、将来的に紙媒体での発行自体が不要となることも予見されます。
- 事務局 ご指摘のとおり、さらなるデジタル化の進展により、公共サービスに求められる内容も時代とともに変化してくるものと認識しています。若年層のニーズも注視しつつ、今後も公共サービスのあり方について検討していきます。
- 千代委員 西鎌倉地区は移動困難地域に指定されています。また、鎌倉山など、コンビニエンスストアがない地区もあります。高齢者をはじめ行政窓口へのアクセスが困難な方々のためにも、移動市役所のような利便性の向上につながる取組の検討が必要であると考えます。
- 事務局 公共サービスの質の向上という観点から、「移動市役所」のような、ハコ（公共施設）

にとられない柔軟な取組についても検討していきます。

李委員長 若年層のニーズ把握を目的としたアンケート調査やワークショップは、重要な取組であると評価します。どのようにすれば若年層が公共施設を利用したいか、公共施設にどういったことを望んでいるかを分析し、公共施設再編計画の見直しに反映させていく必要があります。

再編方針・再編方法について

李委員長 それでは議題に入ります。3. 議題の「(1) 再編方針・再編方法について」、事務局から説明をお願いします。

事務局 ー資料3を説明ー

李委員長 それでは、事務局の説明について、委員の皆様からご意見ををお願いします。

唐松委員 p. 5の「更新等費用平均」及び「投資的経費の上限額」について、どのような費用として試算をしたのか教えてください。

また、p. 43の再編ケースの試算結果について、「民間活力導入を想定し整備（設計・建設費）に係る費用の10%縮減を想定」としていますが、この10%という数値の根拠についても教えてください。

事務局 まず、「更新等費用平均」は、計画期間の28年間における対象施設の建替え、大規模改修及び修繕費の合計を年度あたりの平均値として算出しています。「投資的経費」は、支出の効果が長期にわたる公共施設等の資産を整備するための費用を指し、本市の直近6年間の実績値をもとに年度あたりの上限額を設定しています。

次に、p. 43の再編ケースの試算における10%削減の根拠についてです。延床面積については、施設の複合化・集約化により、共用部や同種の機能を削減することで生じる効率化の目安として、シミュレーション上の算定条件として設定しています。また、民間活力導入を想定した場合の10%縮減についても、同様にシミュレーション上の算定条件として設定しています。

大原委員 p. 43の「※民間活力導入を想定し整備（設計・建設費）に係る費用の10%縮減を想定」について、複合化・集約化での面積削減は理解できますが、「民間活力の導入」によって整備費用を10%縮減することは、一般的に可能なのか教えてください。

事務局 官民連携（PPP/PFI）事業におけるコスト試算において「費用削減率10%」という数値は、民間のノウハウや競争原理が働くことを考慮した目安として、標準的な指標の一つとして広く使用されていると認識しています。ただし、前述のとおり、本コスト試算において、あくまで仮定として設定したものであり、民間活力導入により、必ずしも整備費用が10%縮減されるものではないということをご理解いただきたいと思います。

李委員長 公共施設の再編を進める上で、延床面積やコストの削減目標を設定することは重要です。しかし、一度設定した目標に固執するのではなく、社会情勢の変化や市の状況等を踏まえ、適宜見直しを図る柔軟な姿勢も求められます。もし進捗が芳しくない場合には、その原因を分析し、計画や取組内容の見直しを図ることも重要だと考えます。

また、公共施設の再編に当たっては、市民との合意形成を図りながら進めることも重要です。一方で、市民の安全に直結する老朽化施設などについては、市の責任においてスピード感を持って早急に取組を進める必要があります。各施設の特性に応じて、「市が責任を持って早急に対応し、事後に説明責任を果たすべき取組」と「時間をかけて市民との合意形成を図るべき取組」を整理し、優先順位を検討する必要があります。

波多委員 再編の最終目標は、単にコスト削減することではなく、良い市民生活が得られるかという視点を持つべきです。公共施設の再編を通じて、市の職員が働きやすい環境で意欲を持って行政サービスを提供することは、結果として市民の利益になり、回り回って暮らしやすい鎌倉市の実現に繋がります。このような関係性を目標として計画の中に含めるべきであると考えます。

唐松委員 波多委員と同様の意見で、今回示された10%削減という数値は、今後KPI（評価指標）として扱われていくのかもしれませんが、この数値を守ること自体が目的のようにならないことが重要だと考えます。目指すべきはコスト効率を上げつつも、10代・20代の若年層のニーズにあるような「利便性の向上」や「公共サービスの質の向上」をいかに両立させるかという点にあります。10%という数字はあくまでもシミュレーション上の仮定にとどめ、本質的な機能向上のための検討を進めていただきたいと思います。

事務局 単なるコスト削減ではなく、利便性と質の向上を図る取組のアイデアを検討し、市民と

の合意形成を図りながら、次世代に過大な負担を残さないための公共施設マネジメントを推進していきたいと思います。

唐松委員 p. 2の「公共施設マネジメント方針」について、全体的に公共サービスや市民生活の「向上」を図るという内容や言葉が不足しているように感じます。特に、今後の鎌倉市を担っていく若年層は、必ずしも現状維持を求めているわけではなく、機能や利便性の向上を期待しています。コストの抑制や持続可能性といった視点だけではなく、公共施設の再編を前向きに捉えてもらえるような内容を掲げることが、若年層の理解と期待を得るためにも重要だと考えます。

事務局 公共施設マネジメント方針の内容については、表現のあり方を試行錯誤しながら検討を重ねています。11月の次回の委員会に向け、今回いただいたご意見を踏まえて、より内容を改善し、ポジティブなメッセージとなるよう引き続き精査していきます。

今後のスケジュールについて

李委員長 それでは、4.その他の「(1)今後のスケジュールについて」、事務局から説明をお願いします。

事務局 —今後のスケジュールに関する説明—

李委員長 その他、事務局から連絡事項などはございますか。

事務局 三浦委員は、オンラインにて参加いただく予定でしたが、現時点で参加いただけていないため、欠席として取り扱います。

李委員長 それでは、以上で第3回鎌倉市公共施設再編計画策定委員会を終了します。

以上